

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 19063

建築物名称	(仮称)川崎市宮前区宮前平2丁目計画
建築主	株式会社NIPPO 執行役員 開発事業部長 真田 昭彦
建築物の所在地	川崎市宮前区宮前平二丁目5番1、2、29、40
設計者氏名、建築士事務所名	藤井 優介 大成ユーレック株式会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,506.47m ²
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了予定年月	令和3年4月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.3.1)

評価結果

1-1 建物概要			1-2 外観		19063
建物名称	(仮称)川崎市宮前区宮前平2丁目計画		階数	地上5F	
建設地	川崎市宮前区宮前平2-5-1、2、29、40		構造	RC造	
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域		平均居住人員	64人	
地域区分	6地域		年間使用時間	8,760時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅		評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2021年4月 予定		評価の実施日	2020年3月4日	
敷地面積	923 m ²		作成者	大成ユーレック㈱	
建築面積	660 m ²		確認日	2020年3月4日	
延床面積	2,506 m ²		確認者	大成ユーレック㈱	

外観パース等
パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目数 最高スコア 合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮		2.0/4.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.1
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	断熱性等級4相当	2.1/2.9	3.7
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御	住居部は、カーテン+庇(バルコニー)にて昼光制御		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		0.8/2.3	1.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱性等級4相当	4.1/5.0	4.1
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI 0.82		
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.8/4.7	2.9
2 非再生性資源の使用量削減	内装が乾式工法で分別が容易 PS・天井内配管により設備との錯綜を回避		
3 3.2 フロン・ハロンの回避	発泡断熱材はノンフロン製品を採用		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.0
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	床:フローリング(カーペット同等として):20年 壁:ビニルクロス貼:20年天井:ビニルクロス貼:30年 給水)塩ビライニング鋼管(B)、雑排水)排水用耐火二層管(B)、汚水排水)排水用耐火二層管(B)、Eは不使用	0.3/0.5	3.1
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		2.3/4.0	2.9
2 非再生性資源の使用量削減	内装が乾式工法で分別が容易 PS・天井内配管により設備との錯綜を回避		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.8
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		0.8/2.3	1.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱性等級4相当	4.1/5.0	4.1
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI 0.82		
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱性等級4相当	4.1/5.0	4.1
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI 0.82		
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				環境配慮設計の概要記入欄				
配慮項目	重点項目				建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	全体			
	G	W	R	H			評価点	重み係数	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質										2.7
Q1 室内環境							0.40		-	3.0
1 音環境						3.0	0.15	2.7	1.00	2.8
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音						3.0	0.50	2.5	0.50	
1 開口部遮音性能						3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能							-	2.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					居室Lr=50		-	4.0	0.20	
1.3 吸音							-		-	
2 温熱環境						2.0	0.35	2.5	1.00	2.3
2.1 室温制御						3.0	0.50	3.3	0.50	
1 室温						3.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能			W		断熱性等級4相当	3.0	0.38	4.0	0.38	
3 ゾーン別制御性							-		-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式						1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境						3.2	0.25	3.7	1.00	3.5
3.1 昼光利用						3.0	0.30	3.4	0.50	
1 昼光率					昼光率 2.152%	3.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口							-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備			W			3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						2.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御			W		住居部は、カーテン+庇(バルコニー)にて昼光制御	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御					人感センサーにて自動制御可能	5.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.6	0.25	3.8	1.00	3.7
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					F☆☆☆☆建材ををほぼ全面的に採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						3.0	0.40	3.6	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能					居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保		-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理							-		-	
1 CO ₂ の監視							-		-	
2 喫煙の制御							-		-	

Q2 サービス性能				—	0.30	-	-	2.7
1 機能性				3.0	0.40	2.4	1.00	2.6
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	2.0	0.60	
1	広さ・収納性				-		-	
2	高度情報通信設備対応				-	2.0	1.00	
3	バリアフリー計画			3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0	0.40	
1	広さ感・景観				-	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース				-		-	
3	内装計画			3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計			3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30		-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.1	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数	R		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		4.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		5.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	R		2.0	0.20		-	
2.4 信頼性				2.8	0.20		-	
1	空調・換気設備			3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備			2.0	0.20		-	
3	電気設備			3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備			3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性				3.0	0.30	2.6	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり								
1	階高のゆとり				-	2.2	0.50	
1	階高のゆとり				-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり						3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00		-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出				G	W	H		
				1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G				
				3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上								
				3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W	H		
				3.0	0.50		-	

LR 建築物の環境負荷低減性										3.4
LR1 エネルギー										4.1
1	建物外皮の熱負荷抑制	W	H	断熱性等級4相当	4.0	0.20				4.0
2	自然エネルギー利用	W	H		2.0	0.10				2.0
3	設備システムの高効率化	W	H	[BE][BE _m] = 0.82	5.0	0.50				5.0
4	効率的運用				3.0	0.20				3.0
集合住宅以外の評価										
4.1	モニタリング	W	H							
4.2	運用管理体制	W	H							
集合住宅の評価										
4.1	モニタリング	W	H		3.0	1.00				
4.2	運用管理体制	W	H		3.0	0.50				
LR2 資源・マテリアル										2.9
1	水資源保護	W	R		3.0	0.20				3.0
1.1 節水					3.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60				
1	雨水利用システム導入の有無				3.0	1.00				
2	雑排水等利用システム導入の有無									
2	非再生性資源の使用量削減				2.8	0.60				2.8
2.1 材料使用量の削減				W	R		2.0	0.10		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W	R		3.0	0.20		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W	R	-	3.0	0.20		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				W	R	-	1.0	0.20		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W	R		2.0	0.10		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W	R	内装が乾式工法で分別が容易 PS・天井内配管により設備との錯綜を回避	5.0	0.20		
3	汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.20				3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用							3.0	0.30		
3.2 フロン・ハロンの回避							3.5	0.70		
1	消火剤	W			-	-				
2	発泡剤(断熱材等)	W		発泡断熱材はノンフロン製品を採用	4.0	0.50				
3	冷媒	W			3.0	0.50				
LR3 数地外環境										3.0
1	地球温暖化への配慮	W		LCCO2排出量を参照値より抑制	3.3	0.33				3.3
2	地域環境への配慮				2.8	0.33				2.8
2.1 大気汚染防止							3.0	0.25		
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W	H	3.0	0.50		
2.3 地域インフラへの負荷抑制							2.5	0.25		
1	雨水排水負荷低減		R		3.0	0.25				
2	汚水処理負荷抑制		R		3.0	0.25				
3	交通負荷抑制		R		3.0	0.25				
4	廃棄物処理負荷抑制		R		1.0	0.25				
3	周辺環境への配慮				3.0	0.33				3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止							3.0	0.40		
1	騒音				3.0	1.00				
2	振動				-	-				
3	悪臭				-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制							3.0	0.40		
1	風害の抑制				3.0	0.70				
2	砂塵の抑制									
3	日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制							3.0	0.20		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70				
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				